

◆本誌は、編集方針としてそれぞれの人の考えや作品を尊重し、誤記等を除き原稿をそのまま掲載している。したがって、このたびのウクライナ関連の記述についても、その意見はあくまで各人に帰属するものであることをお断りしておく。そのうえで、今後とも「展景」が自由な発信の場として機能していくことを願っている。

当方は、二〇一一年三一一の震災のときに、流される情報が真実とは限らないことを学んだ。ましてや、ウクライナについては歴史や文化、言語、地理など、ほとんど知らない国である。争いに一方だけが悪いということはあり得ない。事そこに至るまでの原因と経過を注意深く見る必要があるのではないか。さまざまな情報に触れると、やはり慎重な判断をするべきだと思う。多方面の意見に耳を傾け、真実にたどり着く努力をしているところだ。

◆春号の原稿はまだ寒い季節に書かれる。雪国でも晴れば光が満ち、生が輝く。生徒の卒業に際して教師が思う事柄。歩くことよって見えてくる町の様子や人々、そして自分の来し方にも思いが及ぶ。庭木をあらためて見れば、いろいろな思い出がよみがえる。九十歳をこえて生きる強さ、そのさりげなさ。本に触発されて作ったという句の数々。短歌や俳句は時に苦しみながらも、作り

続けて見えてくるものがあるようだ。エッセイのほうは、作陶に挑戦する作者の意気込み、今では少なくなかった雪の中の行事、スイスにおける暮らしの変化など、多彩なものがそろった。

いま世界は混沌としている。この先、どんな変化が待っているのかわからないが、淡々と生きて自分の作品とともに己を掘り下げていくしかないのである。

(布宮慈子)

# muninokai.com

上記のサイトでは、フルカラーのオンライン版「展景」を公開しています。  
61号からのバックナンバーも読むことができます。

季刊 展景  
105号

二〇二二年四月二十五日 発行

編集・発行人 布宮慈子

制作 スタジオ・マージン

無二の会「展景」発行所

山形市上町二一七―二〇二

[info@muninokai.com](mailto:info@muninokai.com)